



好きこそものの上手なれ

副園長 米澤 千秋

吹く風が秋めいて、季節の移り変わりを感じるようになりました。子どもたちは児童館の屋上で遊んだり、近隣の公園や小石川植物園に出掛けたりし、心地よい風を肌で感じています。

先日、子どもたちの遊びの様子を見ている時に、「好きこそものの上手なれ」という言葉が頭に浮かんできました。辞書によると「好きな事にはおのずと熱中できるから、上達も早いものだ」という意味の言葉です。

様々な遊具を組み合わせ、大好きな忍者のイメージで修行の場を作って遊んでいた4歳児の子どもたち。Aさんは、バランスを取りながら渡る遊具を「一本橋の術！」と慎重に進んでいます。ロープが揺れるので渡りきるのはなかなか難しい様子です。一歩進んでは落ち、またロープに乗って進むということを何度も繰り返していました。「さすが忍者！落ちてもすぐに登る術がかっこいいござる」と声を掛けると、やっとゴールまでたどり着き、忍者の決めポーズを見せてくれました。Bさんは岩や壁に見立てた台に一生懸命よじ登り、なるべく遠くにジャンプすることに繰り返し挑戦していました。

大好きな忍者ごっこを楽しむ中で、自然と少し難しいことにも「自分からやってみよう」「できるようになりたい」という気持ちをもって取り組む姿が見られました。

5歳児クラスでは、「水族館ごっこ」がしばらく続いていました。Cさんは「ザリガニを作りたい」と、様々な材料を組み合わせたり、ザリガニの本をよく見たりしながら、試行錯誤していました。これまでじっくり作って遊ぶことがそれほど多くはなかったCさんですが、このザリガニ作りには熱中していました。この意欲はどこからきているのかと考えてみました。水族館ごっこに加わる前にCさんは、友達と一緒に一つの動物を作り、動物園ごっこをしていました。友達に「かわいいね」「本当に口が開いて、餌を食べるなんてすごいね」と認めてもらい、とても嬉しそうでした。この楽しかった経験が、「またやってみよう」という意欲につながっているのでしょうか。また、周囲の友達が水族館の生き物を工夫しながら作る姿も刺激となり、より本物らしく作ることに熱中しているのだと感じました。とても立派なザリガニが完成し、友達から認められたCさん。また一つ、「好きなこと」が増え、自信につながりました。

このように、子どもたちの「好き」「楽しい」という気持ちは大きな原動力となります。なぜならそこには主体性があるからです。今後も、子どもたちが「自分からやってみよう」と思える環境づくり、認める働きかけを心掛けていきたいと思えます。ご家庭でも、お子さんが楽しいと感じている気持ちにたくさん共感していただき、頑張る姿を支えていただければ幸いです。

10月は体を動かすのに心地よい季節となります。子どもたちが夢中になって遊ぶ中で体を動かす楽しさを味わえるような保育を展開していきます。また、2歳児から5歳児クラスでは、運動会を予定しています。様々な運動遊びに親しんだり、友達と力を合わせて取り組んだりする中で、子どもたちの「好き」がいっぱい増え、一人一人が自分の力を発揮できるように援助してまいります。